

## 町村敬志教授 ● 社会調査法Ⅱ



## 社会調査のリテラシーを身につけて 将来さまざまな分野で活躍してほしい

### 私が担当

する「社会調査法Ⅱ」は、社会調査士資格科目ではC科目に該当します。科目はAからGまであり、Aで社会調査の導入部を学び、DからGでより専門的な調査技法を学んでいきます。そのなかでの「B」および「C」ですから、文字どおり中間的な位置づけと言えるでしょう。また、「社会調査法Ⅰ」と比較すると、Ⅰが調査の実施や調査票のつくり方など、現場に出る前のさまざまな方法論を学ぶ場で、Ⅱは調査結果の分析についての考え方や技法などを学ぶ場、というように分けられます。

具体的な授業の内容は毎年アプローチを変えています。軸になっているものは二つです。一つは、学内外にある各種の社会調査データを学生と共有し、実際に分析を行うこと。もう一つは、机上の分析だけではなく、小さな調査を実施することです。特に後者については力を入れています。というのも、「社会調査法Ⅱ」で調査を経験しておく、その後（人によっては同時進行で）ゼミでの実践的なフィールドワークに活かせるからです。また、専門社会調査士の資格をとるため

に、毎年10人ほどの大学院生もこの授業に参加しています。専門社会調査士資格取得のためには、社会調査士の資格取得が必要で、後者を未取得の院生にとっても役立つような内容を心がけています。

### ここで

「小さな調査」について説明しましょう。まず、あるテーマを設定します。そのテーマについて知りたいテーマやそれを具体化した設問を学生から集め、A3・1枚程度の調査票にまとめます。そして学生1人あたり数枚の調査票を持ち、いよいよ現場での調査がスタート。学内の友達・先輩が調査対象になるときもあれば、地元・国立の街に出て、より本格的な調査を行うときもあります。

最近では、東日本大震災によって国立の商店街が受けた影響を調査しました。直接の被害は少なかったのですが、震災当時このエリアは計画停電区域に指定され、実際に電気が消えたこともあり。計画停電の影響はどのようなものだったか。商店街としての節電対策は何か。震災後の街づくりについて取り組んでいることは何か。このような質問を調査票にまとめ、学生が街に出て

フィールドワークを開始。90件以上のインタビューができましたので、調査結果を皆で集計・共有し、各自レポートにまとめてもらいました。さらにその後、私と院生の皆で報告書を作成し、ご協力いただいた地元の方々にもフィードバックしたのです。とても有意義な調査になったので、2012年も追加の調査を実施しました。何よりも学生にとって「調査票を持って人に会うこと」を学ぶよい機会になったと考えています。

### 冒頭で

触れたようにこの授業は社会調査士資格科目ではありませんが、資格以外の動機づけで参加する学生もたくさんいます。そもそも本学部の学生は卒業後、社会調査に関係の深いマスコミ、地方公務員、企業（メーカーなど）に就職する人が多いです。しかも企画、マーケティング、人事など、調査を手がけたり、外部に調査を委託するポジションに配属される傾向があります。そのときに社会調査に関する考え方や技法が備わっていれば、自ら各種の調査を読み込んで企画書やレポートを書くことができます。また、時折見受けられる「結論ありき」の社会調査のクオリティを見破り、より適正な社会調査から有用な分析を行って、事業や仕事に役立てることもできます。ですから授業に参加する皆さんには、社会調査士の資格はもちろんですが、「社会調査のリテラシー」そのものを身につけ、卒業後さまざまな分野で活かしてほしいと考えています。（談）